特別講演（抄録）

抗菌薬適正使用のストラテジー

戸塚恭一
東京女子医科大学感染対策部感染症科

わが国では多くの優れた抗菌薬が開発され，現在でも世界の多くの医療施設においてわが国で開発された抗菌薬が使用されている．この開発は日本化学療法学会を中心とした産学の協力のもとに推進されてきた．この開発には多くの感染症に携わる医師が参加し，研究会を中心として，各施設の研究推進の場であるとともに抗菌化学療法についての教育の場でもあったと考えられる．しかし，その後，新規抗菌薬の開発が減少すると，抗菌化学療法を学ぶ医師のすそ野も縮小していった．新たな抗菌薬が開発できない状況で抗菌薬耐性菌が増加傾向を示し，大きな問題となってきたことから，従来の抗菌薬をいかに適正に使用し，既存の抗菌薬をいかに長持ちをさせることができるかが，大きな課題となってきた．また抗菌薬のPK-PDに基づいた適正使用により有効性を高め，耐性菌を防ぐ新たな考え方も出現してきた．このような状況の中で，学会が中心になり抗菌化学療法についての教育を推進する必要性も生じていると判断された．

2006年に私が日本化学療法学会理事長に就任させて頂いた時に抗菌薬の適正使用の推進とその教育の一環として抗菌化学療法適正使用認定医制度を発足させた．さらに薬剤師についても認定薬剤師制度を発足させ，講習会を設定して教育活動を行っている．現在この講習会には多くの参加者があり，活発に討論がされている．このような裾野を広げる地道な活動は一つの方法と考えている．抗菌薬適正使用に関する今後の課題や展望も含めて提示したい．